

次世代住宅のための革新的なソリューション



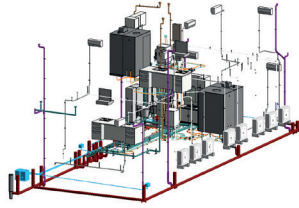
「このバリューチェーンモデルは、エプコだけでなく、日本の建設会社全体の強みでもあります。」

株式会社エプコ
代表取締役グループCEO
岩崎 辰之

脱炭素社会への移行や高齢化による人手不足の深刻化などにより、日本では住宅建設分野の大きな再構築が求められている。住宅技術・機器開発企業であるエプコは、これらの課題に正面から取り組んでいる。

エプコは、長年の経験に基づいて高効率の給排水・電気設備を設計・製造するだけでなく、太陽光発電技術やリチウム蓄電池など、次世代住宅に必要な省エネ設備の設計もサポートしている。これらの技術は、今後の住宅の二酸化炭素排出量削減に欠かせないものである。

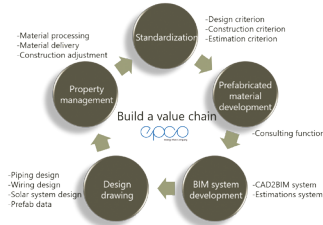
エプコの強みは、「標準化（設計・施工・推計）」「プレハブ部材の開発」「CAD/BIMシステムの開発」「設計



CADデータからBIMを自動作成できるエプコのオリジナルシステム。

（各プロジェクトの配管・配線・太陽電池設備の設計）」「各プロジェクトで使用されるプレハブ部材や施工設計資

料の管理サービス」の5段階からなるバリューチェーンシステムにある。



エプコは、このプロセス全体のバリューチェーンの強化に貢献している。

「このバリューチェーンモデルは、エプコだけでなく、日本の建設会社全体の強みです」と同社社長の岩崎辰之氏は語る。

第3段階に関連して、エプコは2DのCAD（コンピュータ支援設計）データを3DのBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）データに自動的に変換する「CAD-2BIMシステム」を開発した。岩崎氏は、このシステムが日

本の住宅建設業界の人手不足の問題を解消することができる」と確信している。

「当社独自のシステムでは、BIMデータをより速く、安く、大量に提供し、建設前に必要なものを建設現場で可視化することができます。これにより、プレハブレベルでできることの幅が広がります。高齢化が進み、労働力が不足している中で、そのギャップ



配管のプレハブモデル。

を埋め、日本の建設業界が成長し続けるための有効なモデルを提供することができるのです。」



www.epco.co.jp/